

北海道千歳市（国内 83 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 5 年 4 月 3 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 農場は平野部にあり、近隣は牧場や田畑に囲まれた平地にある。
- ② 当該農場は 2 階建てウインドウレス鶏舎 8 棟からなり、発生鶏舎及びその隣接鶏舎は背中合わせの直立 8 段（各階 4 段ずつ）ケージ 4 列、それ以外の鶏舎は背中合わせの直立 6 段（各階 3 段ずつ）ケージ 4 列を有し、調査時、全ての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。
- ③ 衛生管理区域外に GP センターが併設されている。農場の従業員と GP センターの従業員は交差しない体制となっているとのこと。
- ④ 当該農場は国内 82 例目発生農場を中心とした半径 3 km 以内の移動制限区域に位置している。

2 通報までの経緯

- ① 82 例目の発生に伴い 3 月 28 日に実施した発生状況確認検査において、陰性が確認されていた。
- ② 農場によると、発生鶏舎（通報時 564 日齢）の 1 日当たりの死亡羽数は通常 8 羽前後であったところ、4 月 2 日朝の健康観察時、入口側から見て奥側の 2 階で、連続する数ケージにおいて 15 羽程度のまとまった死亡やその周辺で沈鬱個体を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。その後、他の鶏舎を確認したところ、発生鶏舎に隣接する鶏舎においても死亡数の増加が確認されたとのこと。
- ③ 発生鶏舎と隣接鶏舎は、同じ従業員が飼養管理していたとのこと。調査時においても、発生鶏舎の同エリアでまとまった死亡が確認された。また、隣接鶏舎においては、中心よりやや入口側を中心に、所々でまとまった死亡が確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 農場によると、従業員は 21 名で、鶏舎での飼養管理はこのうち正社員 8 名で行っているとのこと。なお、当該農場では関連農場と従業員が一部共通しており、鶏舎担当 2 名は当該農場及び関連農場の両方に勤務しているとのこと。また、鶏舎の担当は 1 人 2 鶏舎で決まっているが、休みなどで担当以外の鶏舎で作業することがあるとのこと。そのほか、自社が所有する化製場で従事する実習生 4 名のうち 3 名が当該農場の飼養管理を手伝うことがあるとのこと。直近では 3 月 26 日～28 日に飼養管理を手伝っていたとのこと。
- ② パート従業員の一部は GP センターにおいて洗浄前の検卵作業を行っており、それ以外は農場内の清掃業務を行うとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 衛生管理区域の周囲は塀やロープが設置され、境界が分かるようになっていた。また、農場入口には立入禁止看板と消毒ゲートが設置されていた。
- ② 農場内は通路部分を中心に石灰が撒いてあり、特に鶏舎入口周辺は週 1 回程度の頻度で散布しているとのこと。
- ③ 従業員は出勤後、衛生管理区域内の事務所で衛生管理区域専用作業服、長靴の着用、手指消毒を行っているとのこと。鶏舎に入る際は、鶏舎前室で鶏舎専用長靴の履き替え、手指消毒、防護服の着用、手袋の着用を行った上で、さらに踏込み消毒（逆性石けんに消石灰を混ぜたもの、毎日又は汚れたら都度交換）を実施しているとのこと。

- ④ 農場によると、飼料業者は消毒ゲートで車両消毒後、来客用のナイロンつなぎと長靴を着用し、衛生管理区域に入るとのこと。その他の来訪者については車両消毒以外の着替えや靴の履替え等について把握していないとのこと。なお、当該農場の従業員以外の者が鶏舎に立ち入る際は、従業員と同様の手順で鶏舎に入るとのこと。
- ⑤ 発生鶏舎の換気は季節によって換気方法を変えており、調査を行った時期は、鶏舎の入口から見て奥の換気扇から排気し、その陰圧により入口側のライトトラップから吸気する強制換気を実施していた。なお、吸排気口には、野生動物対策として、内側に金網、外側にシャッターが付いていた。
- ⑥ 飼料は鶏舎横の飼料タンクから鶏舎内のラインを通じて自動給餌を行っているとのこと。
- ⑦ 給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施した上で、鶏舎内のラインを通じて自動給水を行っていた。鶏舎内では背中合わせになったケージの間にラインがあり、背中合わせのケージの鶏は同じニップルから飲水する構造となっていた。
- ⑧ 鶏糞は農場内で堆肥化等は行っておらず、引取業者の来場時に除糞ベルトを稼働させ、直接業者のダンプカーに積み込んでいたとのこと。1鶏舎当たり5日に1回程度の搬出であったことから、ほぼ毎日どこかの鶏舎の除糞を行っていたとのこと。発生鶏舎及び隣接鶏舎には外部への開口部に自動シャッターが設置されていた。
- ⑨ 死亡鶏は各鶏舎担当の従業員が衛生管理区域内に数か所設置された容器に運んだ後、別の従業員が別の蓋付き保管庫1か所に集約し、処理業者が週3回、この保管庫ごと回収するとのこと。保管庫は、使用後に化製場で洗浄・消毒された後農場に返却され、農場でも消毒を行うとのこと。また、廃鶏は自社化製場に運搬するとのこと。
- ⑩ 鶏舎単位で同一日齢の鶏が飼養されており、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の洗浄・消毒を行い、空舎期間は計21日程度設けていたとのこと。
- ⑪ 集卵はバーコンベアにより鶏舎からGPセンターまで運搬される。鶏舎外を走行するバーコンベアは建屋で全面が覆われており、隙間等はなかった。
- ⑫ 農場奥に新鶏舎を建設中で、3月上旬から工事業者がほぼ毎日出入りしているとのこと。
- ⑬ 除雪機を近隣の系列農場に貸し出すことがあるが、この時期は既に雪が解けているため、3月以降の貸し出しは行っていないとのこと。
- ⑭ 管理獣医師はいるものの、今年に入ってから訪問はなかったとのこと。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場によると、鶏舎内でネズミを見かけることがあり、粘着シートや殺鼠剤を設置しているとのこと。調査時、野生動物による食害やハエ等の害虫は見られなかった。
- ② 農場によると、農場内ではネコを見かけることがあるとのこと。また、アライグマ、シカをたまに見かけるとのこと。野生動物による飼養鶏や鶏卵等への被害は確認されていないとのこと。
- ③ 農場によると、野鳥の農場内への飛来はあまり多くないとのこと。調査時は、農場上でカラスやハトの飛行を数羽程度ずつ確認した。

(以上)